

「彼はなぜ微笑み、彼女はなぜゴミを拾ったのか」

今年度も半分が終わりました。本当にあっという間に感じます。

私は、学校で勤めるのが10年ぶりなので、4月の前期始業式で皆さんにお話した時、実はとても緊張していました。そんな10年ぶりの高校での仕事、釧路北陽高校を中心とした生活は、とても楽しいです！生徒の皆さんが素晴らしく、素敵すぎることに、先生方がいい人たち過ぎるからです。本当に感謝しています。

生徒の皆さんの素敵なおところは、授業や行事、部活動など様々なところで見えてきましたが、その中でも印象に残っていることを2つほど例としてお話しします。

一つ目は、「自転車で横断歩道を渡りながら、私に微笑みながら会釈をする北陽の少年」です。

夜ご飯を食べに車を運転していた時の出来事です。北陽高校の男子生徒が、信号のない横断歩道を自転車で渡ろうとしました。ルールどおり、私は一時停止したその時、男子生徒は、お礼の意と思われる会釈をしながら渡っていきました。しかも爽やかな笑顔で。ルール上、自動車の一時停止は義務付けられており、男子生徒は礼を言う必要はないのです。その行動に若者の素敵さを感じ、とても気分が良くなりました。

二つ目は、「歩きながら、すっとゴミを拾う北陽の少女」です。

朝、学校に向かって歩いていた時の出来事です。北陽高校の女子生徒が、学校に向かって歩いている最中に立ち止まり、道に落ちているパンの袋らしきゴミを、すっと拾いあげました。そして、何事もなかったように校門から学校へ入って行きました。ゴミを拾うべきはそれを持っていた人であるべきであり、女子生徒は拾う必要はないのです。その行動に純粋さを感じ、絶対に拾わないであり得自分が少し恥ずかしくなりました。

「彼はなぜ微笑み、彼女はなぜゴミを拾ったのか」その答えは当の本人にもないかもしれませんが、私は彼らが、「生き方に付加価値を乗せている」ように見えました。あの少年は、自転車で横断歩道を渡るだけでも、自動車の運転手にお礼を言わなくても全く問題ありません。ただ、少年の微笑みと会釈が、他者である運転手に心地よさという付加価値を乗せました。もしかすると、自分自身にも、何かの価値を与えたかもしれません。あの少女も、通学路を清掃する必要はなく、歩いて目的地である学校に到着すれば問題ありません。ただ、少女のすっとゴミを拾う行為が、他者である目撃者に行動を見直そうときっかけを与えるという付加価値を乗せました。

行動の付加価値が積み重なり広がると、学校や地域、世界が今より良くなるような気がしませんか？後期も、たくさん素晴らしく素敵なおところを見せて、楽しませてください。

「何をもって学びと言えるのか」

とても心配になることがあります。学習者である君たちが「学ぶこと」をどのように捉えているのか、についてです。

「学ぶこと、勉強＝覚えること」のような考え方が染みついていませんか？
思考することを面倒くさがったり放棄してしまいがちになっていたりしていませんか？

問い方を変えます。

1日6時間、9時から15時まで、授業者である先生の話聞くだけ、黒板に書かれた文字を写すだけ、この作業を毎日毎日3年間繰り返す。そしてテスト前にノートに書かれていることを丸暗記し、テストで吐き出し、テストが終わったら全て忘れ去る。このような日々は何の意味があるのでしょうか？

さらに問い方を変えます。

日常や部活動の時間などで、全く思考せずに生きていることってあり得るのでしょうか？

今、授業者に求められている授業は、説明だけ知識を伝達するだけの授業ではなく、学習者が思考し自分の考え作り、それを他者と相談・議論し、考えをより良いものにしていく、そのような活動を作っていくような授業です。仮に、説明・板書だけの一方向の授業がずっと続くのであれば、学習者の権利として、授業評価の場面で、適切に評価してください。

しかしながら、授業者が、そのような授業にチャレンジし、皆さんに思考や議論を促しても、学習者の皆さんが、覚えるための答えを求め、問いに対する思考を放棄してしまうという姿勢では、学びが成立しません。授業は授業者と学習者が正しい学びの理解のもと行われなければなりません。

「学ぶこと、勉強＝覚えること」の考え方から脱却しましょう。思考を放棄するのはやめましょう。

皆さんは、休み時間や部活動、日常生活の中で、必ず「なぜ」「どうして」「どうすれば」といった問いを立て、思考し友だちと議論しているはずで、授業の中でできないはずはありません。

思考し自分の考えを作ること、人と議論すること、このことの放棄は、人間が人間らしく生きることの放棄ではないでしょうか。

もう一度問います。何を持って学びと言えるのでしょうか。